

第47回 『あいおの会』

- 失語症友の会 -

1、「失語症友の会」とは

失語症とは、脳卒中や事故などの後遺症によって、言葉を操る能力に障害が残った状態をいい、聞く・話す・読む・書くことすべてに影響を及ぼします。このような失語症の方に対して、言語聴覚士が中心となり、個別の訓練・支援をおこなっております。

失語症の多くの方は、日常の何気ない会話が不自由になり、仕事や趣味活動など、社会活動への参加が難しくなります。そこで、熱海・伊東地区では、失語症の方々のコミュニケーションの機会を作り、交流を深めるという目的で、平成18年7月より「失語症友の会」を開催しております。会には国際医療福祉大学熱海病院と熱海所記念病院の言語聴覚士や患者様のご家族も参加しております。

2、第47回「あいおの会」

平成27年10月4日(日) 今回は、芸術の秋ということでMOA美術館へ遠足に出かけました。気持ちの良い秋晴れに恵まれ、失語症患者様7名とご家族様3名、言語聴覚士10名が参加し20名の方々が集まりました。MOA美術館では現在「平松礼二・森口邦彦展」が開催されており、色鮮やかな絵画や友禅が数多く展示されておりました。また、桃山時代・江戸時代の絵画や骨董品が展示されており、何百年の時を経ても失われない美しさに圧巻されました。芸術を楽しんだ後は、館内のレストランにて休憩し談笑を楽しみました。

今回は、数年ぶりに遠足を行った「あいおの会」ですが、普段病院の中で行われる会とは違った皆様の様子が伺えました。今後も、皆様のご要望に合わせた企画を考えていきたいと思っております。

次回は **12月6日(日) 13時**に予定されています。



参加者全員で集合写真を撮りました。



観賞後は、皆様が談笑を楽しんでいました。